



会長エレクト研修セミナー(PETS) ロータリー財団セミナー・米山セミナー

国際ロータリー第2510地区

次期地区代表幹事

齋藤仁
(小樽南RC)

2023年3月25日(土)、小樽市駅前にある小樽経済センターにおいて「会長エレクト研修セミナー」が、2月地区チーム研修セミナーに引き続きリアル開催で行われた。地区内各クラブの会長エレクトが一堂に会し、松浦ガバナーエレクトの元、会長になるための準備を整える研修が行われたわけである。

ホストクラブを代表して山村弘一小樽南RC会長の開会宣言・挨拶、石丸修太郎ガバナーによる歓迎の挨拶と続き、午前中は松浦ガバナーエレクトによる基調講演「次年度RIテーマ・地区テーマ、地区目標の発表」と題し行われた。年間予定、公式訪問案、予算案と進み、次年度新設される地区新会員研修小委員会からのお知らせを西方洋昭(岩見沢RC)次期地区委員長が行い、配布資料内にある小委員会アンケートをその場で記載できるクラブからは、昼休み中に回収していた。

昼食休憩を挟み、次期研修委員三氏による講演が行われた。トップバッターは次期地区研修リーダーを務める嵯峨義輝パストガバナー。「戦略計画の必要性」と題しご講演いただいた。冒頭、終わったばかりのWBC決勝大谷vsトラウトの話を面白おかしく語り、嵯峨節炸裂。クラブの将来について改めて勉強する事となった。



引き続き福井敬悟パストガバナーによる「クラブ会長の役割と責務」と題しプレゼン資料を用いご講演いただいた。最後は小山司パストガバナーから「会員基盤の強化」と題し、本地区の現状と課題をデータを元にプレゼンいただき、会員増強の重要性を説かれた。

三研修委員の後は、石丸年度から引き続き松浦年度も青少年奉仕に力を入れるという事で、次期地区委員長として唯一、西村次期地区青少年奉仕委員長にご自身のロータリー交換留学生としての体験を交えて、青少年奉仕における地区の現状と課題をお話しいただいた。

午後の後半は恒例の分科会。今年は例年の6分科会から一気に12分科会に増やし、各グループ毎に開催した。次期ガバナー補佐を進行役、次期地区幹事・財務委員のガバナーエレクト事務所スタッフを書記役に配し、90分という時間内で、新年度開始前に次期ガバナー補佐と会長エレクトによるコミュニケーションを大いに取っていただく形を取らせていただいた。

分科会終了後は、進行役の次期ガバナー補佐に分科会の感想を述べていただき、書記役の報告は、後日メールにて参加者に配信する事となった。

研修終了後は会場をニュー三幸に移し、懇親会が開催された。石丸ガバナーの開会挨拶では、ネクタイを外し胸襟を開こうの号令の元、ほぼ全員がネクタイを外し楽になった状態を作り上げた。岡崎地区大会実行委員長による歓迎の挨拶、嵯峨パストガバナーの乾杯の音頭で開宴した。中締めのおいさつは、研修終了後、翌日の財団セミナーリハーサルで遅れて懇親会場入りしていた出村知佳子ガバナーノミニー。明日のセミナーもよろしくお願いいたしますと結び、乾杯で締められた。



翌3月26日(日)は、ガバナーエレクト事務所スタッフ、PETS実行委員は午前7時に会場入りし、8時からの登録受付に備えた。9時から開会し、ロータリー財団セミナーが松原次期地区ロータリー財団委員長の元、開会された。9時10分からはじまったセミナーは、10以上のプログラムを配していたのだが、予定の11時5分の少し前にしっかり終わり、財団チームの統制の取れた進行に脱帽するしかなかった。

財団プログラムの紹介では、羽部パストガバナーの面白おかしいアドリブ的な進行なのに、まるでタイムキーパーを付けている如く正確に5名のプログラム紹介者に述べさせていた。セミナーの最後は、清水一智子財団学友によるオペラ楽曲を披露いただき、ノーマイクで会場中にソプラノの美声を響かせ、万雷の拍手を浴びていた。

後半は入井浩樹次期地区米山記念奨学・学友委員長の元、安孫子パストガバナーの米山記念奨学事業の戦後創立された経緯と先達の苦勞、歴史をお話しされ、改めて日本ロータリー独自の奨学事業を再認識させられた。

札幌西RCの米山記念奨学生デムベレルドルジさんの「ロータリーの学びを母国の架け橋に活かす」では、石丸ガバナーから、今までで一番良い講演だったと太鼓判を押され、笑顔で応えていた。

最後は入井委員長の米山記念奨学事業に対する、熱い思いを出席いただいた会長エレクト、次期米山担当者に語り、米山セミナーは無事終了した。

松浦ガバナーエレクトの所感、石丸ガバナーの講評、小笠原PETS副実行委員長による閉会宣言により、2日間にわたる会長エレクト、ロータリー財団、米山記念奨学の各セミナーは無事終了した。

